

10月23日 ルンビニ保育園において公開保育を実施！

昨年に引き続き、2回目の公開保育をルンビニ保育園にて実施し、神戸大学大学院 准教授北野幸子先生にご指導いただきました。保育の特色として年間を通じた『食育』に取り組んでおられ、当日もクッキングや収穫の場面を見せていただきました。

北野先生からは、保育士の指導のもと、一斉にみんなが同じ活動をするのが多かった昨年と比べ、子どもたちが材料を選び、調理手順を自分たちで書き、自分たちで進めていく姿が見られたことを大変喜んでくださいました。保育士の子どもたちに対する声かけも、誘いかける言葉や問いかける言葉に変化してきていることや子どもの「～したい」という声や興味・関心から保育をつくろうとされていることを評価されていました。

みんなで作ったピザ、竹飯、つみれ汁…を青空下、屋上の芝生でいただきました。思い入れのある食事だからこそ、子どもたちの食欲はいつも以上に進んでいたようです。



参加保育園14園

岡田保育園
さくら保育園
タンポポハウス
平保育園
なかすじ保育園
東山保育園
ルンビニ保育園
八雲保育園
やまもも保育園
中保育所
東保育所
東・南・西乳児保育所

乳児期0～2歳の遊びが3歳以降の遊びや経験につながる！

<いも掘り～2才児～>

園庭で大きく育ったサツマイモを掘る子ども達。掘ったお芋で大きさ比べをしたり、タライに入っている水で洗っていた。その様子を見に来た1歳児の子ども達。始めは見ていただけだったが少しずつ足が進み一緒にサツマイモにふれていた。

<北野先生>

◎夏の活動(洗濯ごっこ)の経験から、サツマイモを洗うことにつながっているのがよく伝わった。
◎サツマイモを洗う場面では、服が濡れても気にせず夢中になってイモを洗ったり、タライに入っている姿もあり2歳児の発達でもある自己中心的な姿が見られた。
◎掘ったサツマイモを見て大きさ比べ。抽象的概念対象が発達してくるのは4歳以上からであり、この年齢で微妙な違いはわかりにくい。あきらかな大・小で大きさを比べると子どもたちにも伝わる。



◎1歳児に見せてあげる2歳児。しかし、さわろうとしない。汚れに抵抗があるようで、サツマイモを洗うとさわりに来た。(衛生的になっている家庭が多く、汚れに抵抗をもつ子どもが増えてきているのが、今の日本の傾向)
手であふれ、匂う経験をたくさんすることが大切になってくる。

<つみれ汁つくり～3歳児～>

目の前でさばいてもらった魚をすり身にし、子どもたちが1からつみれを作った。

<北野先生>

◎粘土、どろ遊びなど今までの遊びが繋がっているのが伝わってきた。(0, 1, 2歳の経験を豊かにする！それが3歳につながる)
◎前回に比べ、横のつながり(子と子)が増えていた。→自由、発想、自分を認めてもらっているとできてくる姿。
◎『あれもいい、これもいい、でもこうしたら～』と声をかけるともっと良い。
◎次に何をするのか、待ってる時間に何をするのかかわからず、待たされている時間が多いと悪さする方法を見つけたり、話が聞けなくなるので、設定保育で気をつけたいところ。



<竹飯～4, 5歳児～>

子どもたちが自分たちで決めた材料を切り、竹筒の中に入れ、火の中に入れる作業を自分たちが作ったレシピを見ながら、進めていた。



<北野先生>

◎しいたけを庭で栽培。成長も見れ、収穫もできることは大事。子どもにとって良い環境。
◎子ども達が活動のイメージをしっかりと持っている。目的がクリアで子どももよくわかっていた。
◎レシピは、自分達で作ることで振り返りにもなる。
◎作業中の会話が増えている。(前回に比べ保育士の誘う声かけが増え、指示語が減った)
◎対保育士、対子どもの相互作用で会話も増える。(先生に話したいだけでなく友達も巻き込んでいる場面が増えていた)
◎タイムタイマーを使うことで時間が意識できていた。



<竹筒転がし遊び～1歳児～>

半分に切った竹筒に色々な素材のものを転がして遊んでいた。

<北野先生>

◎転がったところで色々な音が楽しめるのが良かった。(松ぼっくり、どんぐり、プラスチック等)
◎竹と竹の間が狭かった…環境構成を考える。
◎素材、サイズ、音、形、の違いを体で感じる経験をたくさんすることが大切。この経験が言語化につながってくる。
◎1歳の頃は、5感を使った経験が大事なので、今後の遊びの展開として、視覚を取り入れると5感を使った遊びになる。(トンネルを作って、隠れて出てくるを楽しむ等)



体験・経験を目的化せず、子どもの背後にある“なんでやってみたい？”“何を楽しみたい？”“何を身につけるだろう？”を考え保育していく ～北野先生カンファレンスより～

<体験・経験がねらいではない>

◎幼児期は体験ベースである。しかし作業が目的ではない。

◎体験の中で他の人との違いに気付いたり、創意工夫したり、知識を身につけたりすることが大事。そこをつなぐことが大事。

◎やりながら発見し、やりながら知識や技術を身につけていく。

◎体験と体験をつなげる、学びの発展性を図るのが保育士の役割。

◎プロジェクト型保育を進めていく上で大切なこと…1人1人の遊びの様子や小グループで遊ぶ子どもの活動から何をしたがつているのか、何に関心があるのかを抽出する。

◎次への展開は、「○○ちゃんが～やっ

てみたい」という声をクラス全体に広げ、やるにはどうしたらいいか？どこがおもしろいと思っているのか？そこを拾って進めていくことが大事なポイント。どこがおもしろく、なんでやってみたいのか、そこを掘り下げていくと、実際の活動の内容が変わってくる。

<言葉の発達>

◎実際の発達より難しい単語を使い、その単語の後に言葉の意味を2、3つ足してあげる。こうして語彙の獲得につなげていく。実物を見せたりモデルを見せたりし、それを子どもが見ているか、相互作用で認識の確認をすることが必要。

◎体験の格差が言葉の獲得量の格差につ

ながっている。つまり体験についての言葉で語彙も増えていく。

<待つ時間>

◎何をして待つのか？なぜ待っているのか？これを提示することが大切！！

◎自明性がないと集中しない習慣を身につけてしまう。

◎指導案を考える時に待つ時間についても考える。



ドキュメンテーション報告:やまもも保育園 さくら保育園 東乳児保育所より

午後には、3園より報告を受け、北野先生にご指導いただきました。また、報告園以外にも今園で書いていただいているドキュメンテーションを会場中に並べ、全員で見て学ぶ研修も実施しました。その中で、何度も北野先生から教えていただいていることを再確認することもできました。また、単なるドキュメント（記録）からもう一歩進んだドキュメンテーションにしていくためには、まだまだ課題があることを実感した研修となりました。

興味関心の部分、心情意欲態度のセリフ、知識と技術が見える会話を書く ～各園によるドキュメンテーション報告、北野先生の指導・助言より～



◎子どもの目線の先が何なのかがわかる写真を撮る。子どもの見ている先を写す。

◎会話を長々書くと読みづらくポイントがわかりづらい。

◎興味関心をもったターゲットについて、学びにつながる会話をピックアップする。

◎子どもの言葉を“○○だったかな？”と保育士の思い込みでは書かない。

◎子どもが言葉を発しないときもある→没頭している証拠。

◎楽しそうな子どもの姿を伝えるだけでなく、“何が育ったのか？”“何を楽しんだのか？”“ここが教育だ！”というところを伝えていく。

◎体験を通してどんな感情が育ったのか、どんな能力が育ったのか等「育ち」を書く。

◎集団(保育園)と個(家庭)の育ちを大切に、その違いもしっかり知らせる。

5領域の、どの領域の育ちが子ども達に見込まれているのかがわかる記録を！ ～教育的意図、発達の特徴、子どもの育ちや学び、保育者の工夫を書く～

<ドキュメンテーションの目的>

- ①保育の可視化
- ②保護者に知ってもらい、伝える
- ③子ども達が見て共有し、自分も振り返る。
- ④他のクラスの保育士と共有し、自分の保育を振り返り、評価する。

※ドキュメント＝事実(写真、子どもの言葉、保育者の感想)の羅列はドキュメンテーションではない。

<ドキュメンテーションに加えたい内容>

- ①時系列的要素
- ②発達の要素
- ③学びの軌跡
- ④育ちの見通し
- ⑤保育者の工夫
- ⑥5領域との関わり

◎現在のドキュメンテーションは『教育的意図』が少ない！！5領域を交えて、はっきりと書くことが大切。

◎遊びを通じた教育、環境を通じた教育が保育である。

◎記録をどのように活用するかを考える。

◎教育的意図、発達の特徴、子どもの育ち・学び、保育者の工夫を書く。

◎子どもの育ち・学びを可視化する。何に興味をもって、どんなことを調べた、どういうことを比較していた、何を考えた、何がわかった、何に気付いたかを書く。

◎活動そのもののスタートは子ども

の興味関心から。

◎子どもの姿から活動の理由がある方が、子どもに与える影響は大きい。

◎なぜ自分が子どもに○○を経験させたいのかを考える！！！！

◎幼児期は耳からは学ばない。言葉より体験！！体験から感情が身につく。

◎体験を通して何を感じ何を学ぶ、感じる、考えるのか…を考える。

